

統合報告書  
2026

**FULLCAST**  
HLDGS.



## すべての人を いちばん輝ける場所へ。

企業の成長や競争力を支える上で「新しい労働力」の創出は急務ですが、働き手となり得る学生、主婦、社会人の方は「主業」を持っており、長期での就業は困難です。

その一方で「更なる豊かさ、楽しさ」を求めて働く機会を求めている人も多くいます。

当社グループは働く機会を求める人のライフスタイルにあわせた短期の働き方を提供することで、「労働力を顕在化していくこと」とともに、すべての人の「輝ける場所での活躍」をサポートしていくことが当社グループの使命だと考えています。

### 編集方針

フルキャストグループは、当社グループの持続的な企業価値創造に向けた経営および企業活動全般をステークホルダーの皆さまにより深くご理解いただくことを目的に、2022年12月期より統合報告書を発行しております。本統合報告書においては、投資家の皆さまが特に必要とされる情報を抽出し、当社グループの目指す姿と各事業の取り組みや現状などを紹介し、それらを支える価値創造の基盤などを整理し、グループの全体像をお伝えすることに注力しております。今後もステークホルダーの皆さまのご意見を反映しながら、統合報告書の質的向上を図っていきます。

### <参考ガイドライン>

国際統合報告評議会「国際統合報告フレームワーク」

### <報告対象>

期間:2025年12月期(2025年1月~2025年12月末)

範囲:フルキャストグループおよびその子会社・関連会社

数値:2025年12月末時点

### <将来見通しに対する注意事項>

本報告書に記載されている意見や予測などは、作成時点での当社判断であり、リスクや不確実性を含んでいるため、その情報の正確性、完全性を保証または約束するものではありません。さまざまな重要な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

## CONTENTS

企業理念	02
CEOメッセージ	04
対談メッセージ	06
フルキャストグループの事業	08
価値創造プロセス	10
沿革	12
ビジネスモデル	14
サステナビリティ	16
人的資本／知的財産	18
社会への取組み(人権等)	20
企業倫理	22
コーポレート・ガバナンス	24
情報セキュリティ／サイバーセキュリティ	29
役員紹介／スキル・マトリックス	30
気候変動	32
経営戦略	38
短期業務支援事業／営業支援事業	44
飲食事業／警備・その他事業	46
財務分析	48
財務／非財務ハイライト	50
財務データ	52
会社情報／株式情報	56

### お問合せ先

**株式会社フルキャストホールディングス 財務IR部**  
**東京都品川区西五反田8-9-5 FORECAST五反田WEST**  
**TEL.03-4530-4830**



代表取締役社長CEO  
平野 岳史

### 変化する市場環境を迅速に捉え、 的確に判断していく

現在、国内で少子高齢化や労働人口の減少といった社会課題が先鋭化していく中、日本の労働市場では、各企業が成長を実現していく為の人材、労働力の確保というものが喫緊の課題となっております。また、個人の働き方やライフスタイルの多様化、生成AIをはじめとするテクノロジー進化の加速、さらには世界情勢の不確実性の高まりなど、外部環境はますます複雑化してきており、企業経営も迅速、且つ、柔軟に変化することを求められています。加えて、当社の主力セグメントである短期業務支援事業の事業領域におきましては、昨今、スポットワーク市場における新興企業が急激な成長を見せている等、今後も競争環境が大きく変化していくことが予想されます。この様な状況の中、当社は、今後の環境変化にも対応しうる次代の経営陣、経営体制を選定していくことを選択し、その移行期間の一時的な体制として、私自身、2024年12月より代表取締役に就任いたしました。より素早く、大きな変革を伴う意思決定を行うことで新たな価値を生み出し続けていくという、私に最も期待されているであろう役割をしっかりと果たせるよう、より気を引き締め取り組んでまいります。なお、次代の経営陣、経営体制の選定に向けた取組みは既に着手しており、その一環として、今回の事業セグメントの見直しと併せて、グループ内の子会社役員も刷新し、子会社単体のみならず、事業セグメント全体を統括する役割やM&Aした新規連結子会社のPMIを推進する役割を担ってもらう体制に変更いたしました。加えて、将来の経営幹部候補の獲得を目指す新卒採用プロジェクトを2025年度に発足しました。成長志向人材を対象とする採用イベントやインターンシップの場に社長である私自身が当社の経営幹部と共に参加し、選考活動を当社の

### CEOメッセージ

## 持続的な成長に向けて、事業ポートフォリオを最適化し、 グループ全体の収益力を向上させる

経営幹部が担い、私が最終面接を行うといった形で新卒人材と直接コミュニケーションを取る機会を設けるだけでなく、入社時の配属から役員就任までのキャリアプランを提示する等、ターゲット層の獲得に向けた取り組みを推進しています。

当社は創業以来、市場の変化を迅速に捉え、労働者や企業のニーズに応えるとともに、世の中の枠組みにしっかりと適応したサービスを提供し続けてきたという自負があります。創業当初より、短期に特化した人材サービスを展開し、拡大させてまいりましたが、従来型の繋がりギャップのニーズは勿論のこと、国内の労働力人口の減少に伴い各企業で課題となっている、自社採用の従業員を確保できないといった、より長期的なニーズにも対応してきました。また、過去の労働者派遣法改正に併せてビジネスモデルを転換する等、コンプライアンスを最重要視してきたことで、当社は従来より堅固な管理体制を構築することが出来ていると自負しており、その部分を通じて当社への信頼を深めていただいたクライアントも一定数いらっしゃるのではないかと考えています。引き続き、業界を牽引していく立場にある企業として、当社が果たすべき役割、使命というものは決して小さくないと感じています。変化の著しい国内の労働市場の課題、ニーズにきちんと応えられる企業であり続けられるよう、また、コンプライアンス面でも信頼性の高い企業であるべく、今後も精進してまいります。

### 「中期経営計画2029」の初年度を終えて

この度、当社グループの「中期経営計画2029」の初年度が終了いたしました。業績面では、主力事業である短期業務支援事業を中心に当初の想定通りに業績が推移したこ

とで、売上高は77,227百万円(前期比12.6%増)となり、業績予想を超過いたしました。一方で、営業利益は7,915百万円(同10.9%増)と、業績予想を下回りましたが、これは主に2025年度に注力したM&A関連費用や、先行投資として実施した飲食事業に係る出店費用を計上したことによるものです。2025年度は、合計で3件のM&Aを実施することが出来ました。また、進行期である2026年度も既にM&Aを1件実施済みであり、さらに1件の実施を予定していることを公表しております。なお、これらのM&Aを実施したことで、当社グループ全体の収益性が一時的に低下する見通しですが、新規連結子会社に対するPMIを推進していくことで、収益性の改善は十分に可能であると考えています。

当社グループは「中期経営計画2029」における事業戦略として、当社の主要セグメントである短期業務支援事業において、当社とのシナジーが見込める事業領域に対して積極的にM&Aを推進すること、飲食事業において、新業態の立ち上げや新規ブランドの獲得を通じてラインナップを拡充すること等を掲げておりますが、それらの戦略に沿ったM&Aを順調に実行することが出来ています。また、同じく事業戦略の1つとして事業ポートフォリオの最適化を掲げております。2025年度は一部の子会社の吸収分割や子会社の閉鎖等を実施し、2026年度は報告セグメントを変更する等、事業戦略に沿った組織再編や管理体制の整備を進めています。

主要セグメントである短期業務支援事業を始めとする各セグメントの伸長、継続的なM&Aの実施、グループ全体の収益力の改善を通して持続的な成長を実現することで、「中期経営計画2029」の最終年度目標である「営業利益125億円」の達成を目指してまいります。

## 新たな価値創造の為、挑戦し続ける



代表取締役社長CEO  
平野 岳史

代表取締役副社長  
坂巻 一樹

### 今後のAIの活用については どの様にお考えでしょうか。

平野 2022年11月のChatGPT公開以降、生成AIは爆発的に世の中に普及しています。AIの活用は企業経営の在り方を根本から変えるポテンシャルを持っていると考えており、当社も既にプロジェクトを立ち上げ、活用に向けた取組みを進めています。より具体的

にお伝えいたしますと、この度、テクノロジー分野に精通した人材を経営陣に迎え入れました。当社におけるAI戦略を策定する等、早速その能力を発揮していただいておりますが、AIの領域に限らず、その知見を通して、当社の成長に貢献していただけたと考えています。  
坂巻 今回、社長室直轄のプロジェクトチームの立ち上げも実施いたしました。より現場のリアルな視点を取り入れ、施策の実効性を高めるため、法人や部署の枠

を超えてメンバーを公募し、意欲のある者が挑戦できる体制としました。単なる企画立案に留まらず、経営の核心に近い役割を担ってもらうことを期待しています。

### 今回、新しく実施した 取組みについてお聞かせください

平野 2025年度は、株主優待制度を新設いたしました。有難いことに、個人の投資家の方を中心に当社の株式を保有していただいている方が大きく増加しており、その効果を大いに実感しているところです。この株主優待制度をより良いものにしていく為に、内容を見直していくことは勿論のこと、これからより多くの皆様に保有していただけるよう、当社株式への投資の魅力を高める取組みについては積極的に実施していきたいと考えています。なお、直近で私自身も、資産管理会社を通じて当社株式の市場買い付けを実施しております。投資家の皆様には、私自身が当社に対して抱えている期待度を、この行為を通してより強く感じていただきたいと考えています。

坂巻 2025年度は、従業員持株会を通じた「特別奨励金スキーム」も新しく導入しています。当社の中長期的な株主価値を高める観点で、従業員の経営参画意識とモチベーションの向上に繋がる効果を期待し、今回の導入に至りましたが、こうした従業員向けの取組みについても、引き続き検討していく必要があると考えています。

### 2024年度より継続している 戦略的投資について、 現在の実施状況を伺えますでしょうか？

平野 テレビCMの放送の他、リスティング広告、アプ

リ広告、YouTube広告、TVer広告を活用したプロモーション活動は、2025年度も引き続き実施しました。当初の目的である当社のブランド力の強化や認知度の向上については、既に効果を発揮することが出来ています。

坂巻 認知度を一定の水準まで引き上げられたことで、2025年度は戦略的投資に係る費用を前期比で削減しました。認知度を維持する為に、プロモーション活動自体は今後も継続して実施する考えですが、判断は慎重に行わなければなりません。市場環境や現場の状況を見つつ、適切な検証を行った上で実施していく考えです。

### 今回、役員の交代がございましたが、 ガバナンス体制はどのように なっているのでしょうか？

平野 当社は、機関設計として監査等委員会設置会社の体制をとっています。また、取締役会の1/3以上を独立社外取締役として選任することで、取締役会の監督機能を強化するとともに、当社グループにおける持続的な企業価値向上のための議論の充実化に努めております。この度、社外取締役である佐々木氏が退任し、新たに齋藤氏が就任いたしました。引き続き客観性と中立性を確保した体制を構築することが出来ています。

坂巻 新任の齋藤氏は、公務等の職歴を通じて、財務や税務に関する業務の他、マネジメントや監査統括業務等にも豊富な経験を有しており、その知見を経営に反映していただくことで、これまでと同等、ないしは、これまで以上の監督機能の発揮に貢献していただけと考えています。